２０２５年（令和７年）　９月２２日　月曜日
東奥日報　１２面　掲載

光星７回勝ち越し 東北へ

秋季 県高校野球 第9日

弘東 好機あと1本出ず

秋季東北地区高校野球県大会は第9日の21日、青森市の県営球場で準決勝1試合を行った。初回に先制された八戸学院光星は、中盤に追い付き、七回に3点を奪って勝ち越しに成功。5―2で弘前東を破って決勝に進出するとともに、3年連続の秋季東北大会出場を決めた。最終日の22日は、八学光星―八工大一の決勝と、東北大会の残り1枠を懸けた青森山田―弘前東の3位決定戦を行う。（加賀谷りな、佐藤正悟、長内健）

きょうの試合
（左のチームが一塁側）
◇県営
▷3位決定戦
青森山田―弘前東（10・0）
▷決勝
八工大一―八学光星（12・30）

【弘前東―八学光星】7回裏、八学光星無死満塁、吉田が右中間に適時打を放ち3―2と勝ち越し。捕手・澤

▽準決勝（県営）

【評】八学光星は2―2で迎えた七回、連打と鈴木の適時打と暴投でこの回さらに2点加えた。エース北口は初回に2点を先制されたが、二回以降は要所を締めて完投した。

強気で勝負 殊勲打

光星・吉田

八学光星は２―２で迎えた七回、無死満塁の勝ち越しの好機。チャンスで打席が回ってきたのは、六回から途中出場した背番号14の吉田だ。「プレッシャーを楽しめるところが持ち味。やってやろう」。強気で勝負に挑んだ。

２ボールからの３球目、外角低めの直球をとらえ、右中間に運んだ。吉田は「打てる自信しかなかった。泥くさいヒットだったけど、よかった」とはにかんだ。打ち損じをなくすため、練習時は抜かりないスイングで一球一球仕留めることを心がけている。その成果がこの日の勝ち越し打につながった。

３年生が引退して新体制になったとき、吉田はベンチ入りの可能性が高い「A班」メンバーから漏れた。「ここで腐ったら終わり」。練習の日は誰よりも早くグラウンドに行くなど、ひたむきに練習に励んできた。

「甲子園に行きたい」との一心で地元大阪を離れて八学光星に入学した。夢に向かって「一つ一つ着実に近づいている」と吉田。チームで信頼されるバッターを目指し、さらなる活躍を誓った。（加賀谷りな）

東奥日報社提供
この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです